

2009年秋 長谷稲刈りエコツアー

事務局 (インターン生/内山 傑)

9月26日27日に、今年で6回目となる長野県長谷でのエコツアーが行われました。今年は、会員・外部の方・事務局、合わせて17人が参加しました。冷夏の影響でお米のでき具合が心配されましたが、当日は黄金色に実った稲を収穫することができ、秋の長谷を満喫しました。

〈1日目〉

まず、軽トラックで稲刈りを行う中村田んぼに移動しました。心配されていた天候も、暑いくらいのいいお天気で、黄金色に実った稲穂と青空は都会ではなかなか目にする事の出来ないとてもきれいなものでした。

稲刈りではまず、中村さんのお父さんから稲の刈り方、束ね方を教えていただきました。そして、稲を刈る人、刈った稲を束ねる人、束ねた稲を運んではぎ掛けする人に分かれて作業しました。その中でも難しいのが、刈った稲を束ねる作業です。中村さんにお手本を見せていただいたときはそんなに難しそうに見えませんでした、いざ参加者がやると四苦八苦でした。

田んぼでの稲刈りを終え、入野谷のマイクロバスで歴史散歩に出かけました。はじめに、ちょうど中央構造線が通っているジオパークで断層を見ました。この断層は九州まで1,000kmも続いているそうで、地球の大きさを実感しました。次は国の重要文化財にも指定され、伊那日光とも言われる熱田神社を見学しました。熱田神社では、5年もの歳月をかけてつくられたという本殿の、素晴らしい彫刻を見ることができました。歴史散歩の最後は八人塚です。八人塚は郷土を守るため、武田信玄に抵抗して処刑された伊那の英雄をまつたもので、中村さんが話してくださる伊那の歴史に耳を傾けながら見学しました。

その後、おいしい料理をいただきながら、参加者・地元長谷の方々との懇親会を行いました。懇親会では、長谷支所長の中山さんが、長谷で昔から愛唱されている「ざんざ節」の歌を披露してくださいました。

〈2日目〉

入野谷で朝食をすませ、ミニワークショップと郷土料理体験を行う中尾座へ。今年のミニワーク

ショップは、「今の時代とNPO活動・市民活動」というテーマで、参加者の方、地元の方と意見交換をしました。日本ではまだまだNPO活動への理解・認識が足りないのも、例えば環境だけでなく、子育てや福祉などさまざまな入り口をNPO自身が持つことが必要ではないかという意見が出ました。

次に、長谷の郷土料理体験です。食文化研究家の小松さんの指導もと、参加者全員で協力して長谷の郷土料理を作りました。できあがった料理は、ほとんど地元の食材を利用したもので、都会では忘れてしまいがちな食のありがたみを感じることができました。また、自分たちで作った料理ということで、味も格別でした。昼食で食べきれなかった分は、持参したタッパーに詰め参加者でおみやげにいただいて帰りました。

昼食後は、小松さんに「ざんざ節」と「きんにょにょ」の踊りを教えていただき、参加者で輪になって踊りました。

エコツアーを通じて、長谷の自然、歴史・文化に触れることができました。2日間という短い時間の中でしたが、とても貴重な、内容の濃い経験が出来ました。また、地元の方との交流もさることながら、参加者同士でもさまざまな年代の方と交流ができました。そういった意味で、今回のエコツアーは素晴らしい出会いの場であったと思います。



参加者の感想

Chris Harrington (クリス・ハリントン/会員)

細長の谷のどこを見ても稲でいっぱい田んぼが広がります。それが9月終り頃、長野県伊那市の山道を登って長谷を見た最初の印象でした。

エコツアーは初めてがいっぱいでした。ツアーに参加したのは初めてで、稲に触るのも、当然ながら稲刈りも初めてでした。意外と稲が柔らかく、あまり力使わずに鎌で切れましたが、きっと田んぼ全部やったら腰を悪くするでしょう。もう一つの初めては、なんと盆踊りでした。23年間日本に住む私でも、一度もやったことがなかったです。いつもお祭りに参加したとき、恥ずかしくて踊りは避けていましたが、今回のエコツアーの二日目、たまたま地元のおばあちゃんが教えてくれるということで、長谷の人々の優しさでその恥ずかしさが溶け、音楽に合わせて踊ってみました。すると、初めてその意味がわかりました。皆が輪になって、同じ音を聞いて同じ動きをすると、さっきまで別々だった人たちが、心が一つになる。またいつかこの谷で皆と踊りたい。

吉岡 和真 (よしおか かずまさ/大学生)

稲刈りは今までやったことがないので、楽しみにしていました。当日はどんよりとした雲が覆っていたため心配でしたが、行ってみれば雄大な山・青い空そして黄金色に輝く田んぼが私たちを迎えてくれました。

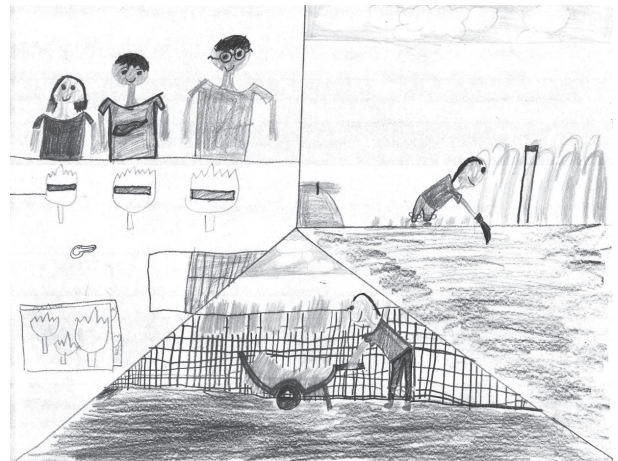
集合場所の中尾座では中村さんから中尾歌舞伎の舞台や衣装などを紹介していただきました。伝統を守っていく姿と地元から中尾歌舞伎座が愛されているのが伝わってきました。そして稲刈りはとても楽しく、時間を忘れて稲刈り作業をしてしまいました。

一番驚いたのが郷土料理です、豪華な料理なら美味しいのは当たり前ですが、今回郷土料理で食べたのはおにぎりやお餅などいたってシンプルな料理ですが、これが大変美味しいのです。ただの塩おにぎりがここまで美味しいとは思わずつい食べ過ぎてしまいました。

最後に田植えからガイドまでしていただいた中村様、郷土料理を作っていただいたお母さんたち、ツアーを企画していただきましたスタッフの皆様、楽しい一日をありがとうございました。また今度も参加したいと思います。

鳥居 あみ花 (とりい あみか/小学1年生)

わたしは、いねかりがたのしかったです。おこめをたくさんきりました。たばにもしたけどむずかしかったので一つしかやりませんでした。大きなたばにしました。一りん車にも、たばをいれてはこびました。つぎのひは、おかあさんたちがおはなしをしているとき、おりょうりをたくさんつくりました。おにぎり、しそのみそまきもつくりました。いちばんおもしろかったのは、ごぼうのささがきをすることです。またいきたいです。



鳥居 享代 (とりい みちよ/会員)

娘と一緒に参加して3回目になります。毎回感じること、参加した後に「優しい気持ち」になれることです。長谷の自然に触れ、準備をしてくださった地元会員の方の暖かい歓迎を受け（本当にお世話になりました）、そして、田舎料理を親子で学ぶことで、心がほぐれるような気持ちになるのです。また毎回楽しみなのが、会員の方々との語りです。環境のことはもちろん、子育て、若者の事など、人生の先輩方や若い方からお話を伺うことができました。今回もとても有意義な2日間でした。